



1 SK153精査(南東→)



2 SK199精査(南東→)



3 SK153・199断面(東→)



4 SK153・199断面(北→)



5 SK153・199断面(東→)



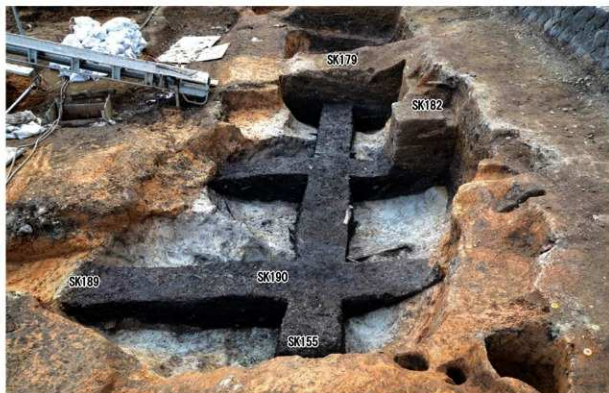
1 SK154断面 (北→)



2 SK154完掘 (南→)



3 SK155・179・182・189・190精査 (南→)



1 SK155・179・182・189・190断面 (北→)



2 SK155・179・182・190断面 (東→)



3 SK155遺物出土 (北→) 下駄。



4 SK155遺物出土 (北→) しゃもじ。



1 SK155・189・190完掘 (南東→)



2 SK179断面 (南西→)



3 SK179遺物出土 (南東→) 櫛の柄。



4 SK179遺物出土 (南→) 桶底。



1 SK179完掘(北→)



2 SK182・240断面(東→) 上部3層がSK240。



1 SK182・240断面(東→)

2 SK182遺物出土(西→)



3 SK182・240完掘(北→)



1 SK162断面 (南→)



2 SK163完掘 (北→)



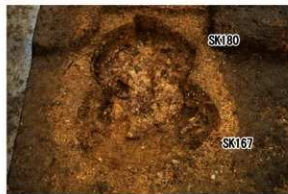
3 SK166断面 (東→)



4 SK166完掘 (北東→) 平安時代の竪穴建物跡SI290と重なる。



1 SK167断面(南→)



2 SK167・180完掘(北→)



3 SK171断面(東→)



4 SK171断面(南→)





1 SK171完掘(南→)



2 SK177精査(南→)



1 SK177・243・245・262完掘(東→)



2 SK177・243・245・264断面(東→)



3 SK214・243・245断面(東→)



1 SK178断面 (南西→)



2 SK178完掘 (南西→)



3 SK183断面 (北→)



4 SK183完掘 (北→)



5 SK184完掘 (南→)



6 SK185完掘 (南東→)



7 SK191・242断面 (北→)



1 SK191・207・242完掘(東→)



2 SK192断面(北→)



3 SK192完掘(北→)



1 SK192完掘とSK234断面 (北東→) 旧地表の黒色土上を客土層が覆う。



2 SK194断面 (南→)



3 SK194完掘 (南→)



4 SK202・203断面 (南→)



5 SK202・203完掘 (北→)



1 SK244完掘 (西→)



2 SK244遺物出土 (南西→) 曲物。



3 SK247精査 (東→)



4 SK247南北断面北側 (東→)



5 SK247東西断面東側 (北→)



6 SK247南北断面南側 (西→)



7 SK247東西断面西側 (南→)



1 SK247西壁断面(東→) SK324から329が切り合い、ゴミ穴が反復して使われていることを示す。



2 SK247完掘(東→) SK323から329が切り合い、ゴミ穴が反復して使われていることを示す。



3 SK251完掘(南→)



4 SK252完掘(南→)



1 SK254・261断面 (北→) SK261を埋め、グライ化粘土を貼り床してSK254とする。



2 SK254完掘・261精査 (北→) SK254の貼床検出。



3 SK254・261完掘 (南→) 床面の凹凸から何回も反覆して掘り返されたことが分かる。床に建つ柱は2m以上地下に打ち込まれていた。材はクリ。

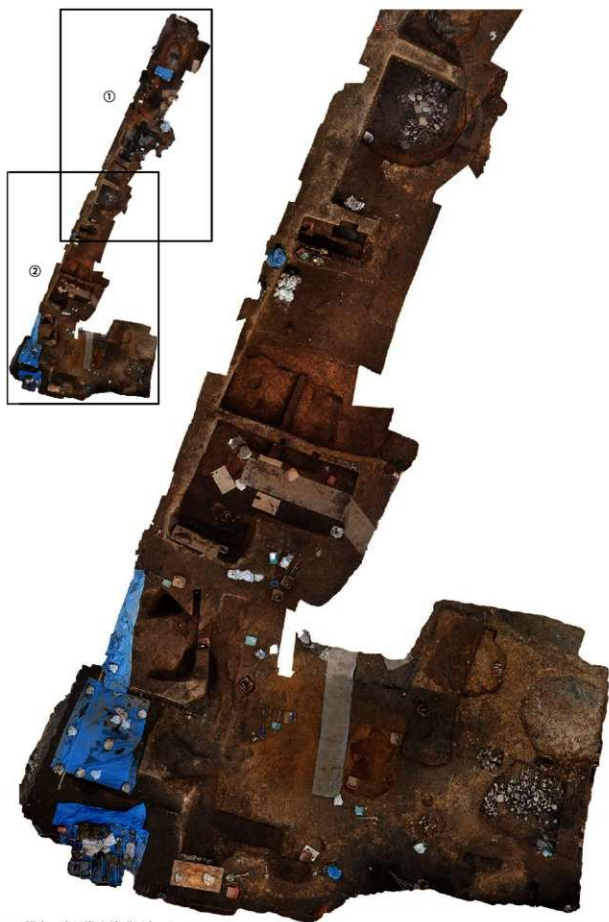




1 SK289断面 (東→)



2 調査区南西際土坑群 (南→)



1 調査区南西際土坑群 (南→)



1 SK201断面 (南→)



2 SN205断面 (南→)



3 SN229完掘 (南→)



4 SN205断面 (東→)



5 SD215精査 (東→)



6 SD218完掘 (東→)



1 SN284断面 (東→)



2 SD196・197・SM198精査 (東→)



3 SD196・197・SM198断面 (西→)



1 SD250検出 (南→)



2 SD250断面 (南→)



3 SD250完掘 (南→)



4 調査区南西部完掘 (南西→)



1 調査区南西部完掘(南→) 調査区南西隅の東西20m、南北30m程の範囲を収めた写真。写真左と下は土塁SF01の法尻である。崩落を防ぐため、土塁裾から1~2m内側で調査は止めている。



SK111

SD24



切岸断面



SB376



中土橋通り版築



1 上屋敷北東部・正門検出（北→） 写真中央左側に正門SB305の石造U字溝が見える。石造U字溝の検出面はすでに江戸時代の層を30cm近く掘り込んでいる。



2 上屋敷北東部・正門検出（南東→） 写真中央に見えるパイプ下の黄色い盛土層が県民会館建設工事に伴う掘削ライン。写真右奥で人が働いている面が、幕末から明治に当たる。





1 SB376精査 (北→) 建物範囲内に柱筋と平行する複数の短い溝が検出され、または竪を造り替えた長屋と考えた。



2 SB376北側断面 (北→) 分厚い盛土層中に所々柱穴が見える。



3 SB376西側断面 (西→)



1 SB376p1断面 (北→)



2 SB376p2断面 (北→)



3 SB376p3断面 (北→)



4 SB376p4断面 (北→)



5 SB376・SD378 (東→)



6 SB376・SD380 (東→)



1 SB376・SD378p2断面(南→)



2 SB376・SD378p1断面(南→)



3 SB376・SD381精査(西→)



4 SB376・SD345精査(北→)



5 SB376・SD381断面(西→)



6 SB376p354完掘(西→)



1 SB376p346断面 (東→)



2 SB376p346・p2212完掘 (東→)



3 SB376p352断面 (南→)



4 SB376p352完掘 (西→)



5 SB376・SD345検出 (南→) 当初はSB376・SD378・380・381は検出できず、SD345のみだった。



1 SD345検出(北→) 正門SB305の石造U字溝の南側延長線上にある素掘りの溝。前述したSB376より上面で検出した。



2 SD345完掘(北→) この面を20cmほど下げてSB376をはっきり捉えることが出来た。



1 SK111精査(南→) 入口は南側に取り付く。



2 SK111断面(西→) 南北断面西側。暗褐色土は木材が泥炭化している。近代のSB03が北壁を壊す。



3 SK111断面(北→) 床面直上の東西断面北面側。西側は裏込めと屋内が直線的に分かれる。



1 SK111断面(北→) 裏込めと屋内で層が直線的に分かれる。掘方床面には壁溝と壁板の痕跡がある。



2 SK111断面(西→) 南北断面北側。



3 SK111断面(西→) 南北断面南側。床面近くの20~30cmは部材破片が泥炭化している。



4 SK111断面(北→) 床面直上の東西断面北面側。グライ化して青灰色を呈する砂礫層が貼床。地山との間に黒色土のラミナが1枚入る。貼床の上に3cm程堆積した暗褐色土層が生活面。



1 SK111完掘（南→） 記念館馬車門基礎下から検出。



2 SA04完掘（南→） 記念館馬車門基礎脇から検出。





1 SD24完掘・SKP1980精査 (北→) 中土橋通りに面した溝と柱。



2 SD24完掘・SKP1980精査 (東→) 版築によって中土橋通りから敷地まで連続的に造成。



3 SD72完掘 (東→) SD24と同様版築によって造成された敷地掘を掘り込んで溝を作る。



1 切岸断面(南→) 中土橋通りに面した版築と溝。



2 切岸断面(北→) 低湿地に版築・盛土して低い土手を造った後、拳大の礫一小礫一砂礫の順で敷地を盛土。盛土末端を版築によって固め切岸とする。



1 切岸断面（南→） 版築は下から上へと階段状に構築される。



2 切岸断面（南→） 中土橋通りに面した一番北側の断面。ここでも版築と溝が確認出来る。



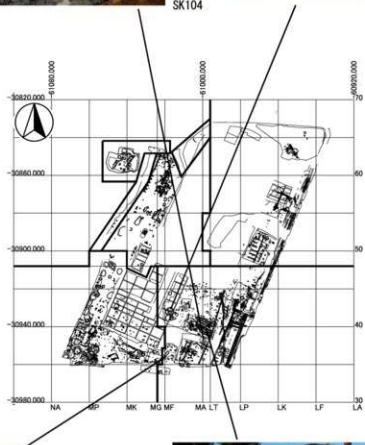
3 中土橋通り断面（西→） 調査区東端に現れた版築。現中土橋通りの地下には江戸時代の道路が眠る。



SE434



SK104



SN281



SD433



1 調査区南東部盛土堆積状況(北→) 黄褐色砂礫土と黒色土、礫が交互に堆積する。調査区南壁(写真中央上部)に現れた土手状盛土を境に東西へ盛土の堆積方向が分かれる。



2 調査区南東部盛土堆積状況(南→)



1 SE434検出(北一) 本来の掘込面から160cm以上掘り下げて検出。写真中央のグライ化部分に井戸桶がある。写真左下には旧地表土と造成で埋められたSD485他煙灰跡群の一部が見えている。



2 SE434(北一) 本来の掘込面から160cm以上掘り下げて検出。掘り方長軸は5m以上ある。



1 SE434検出断面(北東→) 盛土が東から西へ積まれるため、西へ向かって傾斜することに注意。地形は西高東低である。



2 SE434井戸桶検出(南西→)



3 SE434遺物出土(北→) 灯明皿。  
肥前陶器  
1610-1650年。



4 SE434調査状況(南→)



1 SE434精査(南西→) 井戸枠も検出。



2 SE434精査(南西→)





1 SE434精査(南東→)



2 SE434精査(北東→)



1 SK104検出 (西→) 県民会館ジョイナス基礎間にも遺構は残る。



2 SK104検出 (西→) 大量の木製品が堆積。



3 SK104断面 (北→)



1 SK104断面 (南→) SK104の上を地山由来の黄褐色粘土が覆う。



2 SK104精査 (西→) 調査1年目はこの面で止めた。



3 SK104遺物出土 肥前磁器皿。



4 SK104遺物出土 肥前磁器皿と大量の木製品。



1 SK104断面(西→) 2年目の調査面は、県民会館の基礎除去工事によって初年度調査停止面から50cm以上削平された。黒色土と黄褐色土の互層。頻繁に土砂を被せている。



2 SK104遺物出土(南→) 曲物出土。



3 SK104遺物出土(北東→) 雁首銭か。



4 SK362断面(北→) SK104と重複。別番を付けたがSK104が使われる過程で掘られた一連のゴミ穴。



5 SK363・383完掘(南→) SK104と重複。SK362と同様SK104の使用→埋め戻し→再利用に伴って掘られた一連のゴミ穴。



1 SK104完掘（北東→） SK362・363・382・383が重複する。別番号を付けているが、全てSK104の再利用によって掘り直された遺構。



2 SK303・313・340・351断面（北西→） SK104と同様、頻繁な埋め戻しと再掘削によって利用されたゴミ穴。遺構上部でSK104と313が重複したが、新旧は不明。陶磁器の年代もほぼ17世紀にまとまる。



1 SK303断面 (北→)



2 SK303・313・340・351断面 (北→)



1 SK303・313・340・351断面(南西→)



2 SK313遺物出土(北西→) 漆器椀出土。



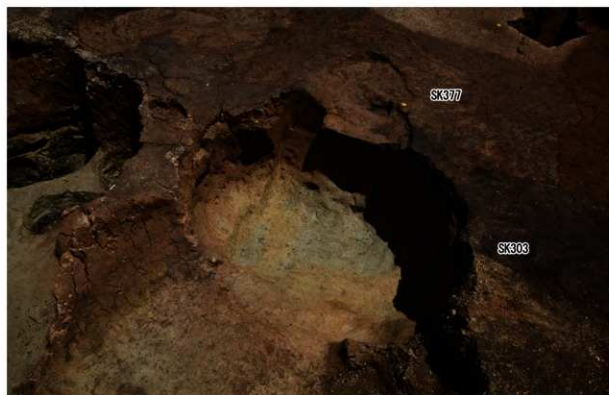
3 SK313遺物出土(南東→) 漆器椀出土。



4 SK313遺物出土(南東→) 曲物出土。



5 SK377断面(南東→)



1 SK303・377完掘(南西→)



2 SK303・313・340・351完掘(東→)





1 SK270断面(南→)



2 SK270遺物出土 漆器碗。



3 SK270遺物出土 「太秦」銘の硯。



4 SK270完掘(南→)



1 SK271断面 (南→)



2 SK271遺物出土 櫛とヘラ。



3 SK271遺物出土 櫛。



4 SK271完掘 (北→)



1 SK302断面 (南西→)



2 SK302遺物出土 (西→) 曲物出土。



3 SK302完掘 (南西→)



4 SK303・377完掘 (東→)



1 SK272・308・309断面(西→) 黒色土と黄褐色土が細かく互層になっているのは盛土。写真下の黒色土は造成前の旧地表。



2 SK308断面(西→)



3 SK272断面(西→)



1 SK272・308・309完掘 (西→)



2 SK308完掘 (西→)



3 SK309完掘 (北西→)



4 SK357完掘 (西→)



5 SK358完掘 (南東→)



1 SK272・308・309・357・358・360完掘（南東→）



2 SK273断面（南→） 写真左後ろがSK270。



3 SK273完掘（南西→）



1 SK270・273完掘 (北→)



2 SK274断面 (東→)



3 SK274遺物出土 (北東→) 羽口。



4 SK274完掘 (北東→)



5 SK384断面 (南→)



1 SK384完掘 (北→)



2 SK414断面 (南→)



3 SK400・413・SKP2739完掘 (北→)



4 SK481断面 (北→)



5 SK481完掘 (北→)



6 SK280断面 (東→)





1 SN280焼土面精査 (南→)



2 SN280完掘 (南→)



3 SN281検出 (南→)



4 SN281焼土面精査 (南→)



1 SN281断面 (西→)



2 SN280・281精査 (南→)



3 SN282断面 (北→)



4 SN282断面 (東→)



5 SN283精査 (南→)



6 SN479断面 (南→)



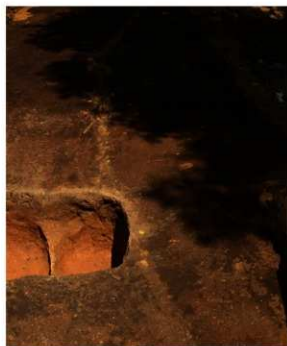
1 SD314・318断面 (北→) SD314が上屋敷切岸よりも古いことに注意。



2 SD314・318完掘 (北→)



3 SD314・318 (南→)



4 SK372検出 (南→) 造成時の盛土で埋まる。



5 SK372断面 (南→)



1 SD433精査（北西→） 複数の溝が並行しており、畑畝跡と考えた。造成時の盛土で埋められており、洗江家が本地点を拝領する直近まで耕作されていたと推定。



2 SD433完掘（南東→） 写真中央奥に見える重機は、上屋敷造成盛土を除去している。写真左下の黄褐色土はSE434の堆積土。



1 SD433完掘 (南西→)



2 SD418完掘 (南→)



3 SN473・475完掘 (東→)



1 SD466・467・468・469・470精査(南→)



2 SD488完掘(南→)



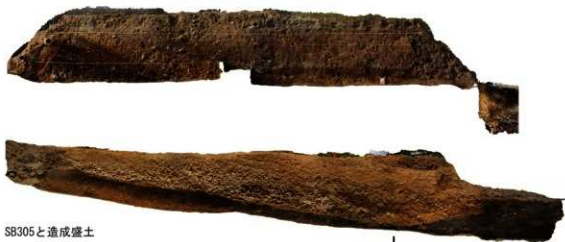
3 SN476・477完掘(西→)



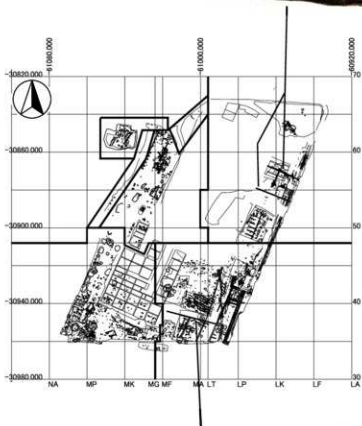
4 SN492完掘(北→) 調査区際の壁面で検出。



1 SD466・467・468・469・470・SN473・475・SD487・488精査(南→) いずれの遺構も造成時の黄褐色土で埋められている。畑に関わる遺構と推定している。



S8305と造成壁土



SE434を通る東西断面





1 調査区東端の埋没沢精査(西→) 造成開始時に埋められる。大量の木材を含む木っ端層。現代のジオテキスタイル工法と同様、軟弱地盤に対する地盤改良を試みたと推定。



2 中土橋通り枡形に面した切岸断面(北→) 敷地造成時の黄褐色土と黒色土の積層を覆って暗褐色土が堆積する。中土橋通り枡形は写真左側。



3 中土橋通り枡形に面した切岸断面(北→) 写真2の続き。江戸時代の中土橋通り断面。



4 洗江家脇門周辺の盛土(西→) 写真右側に版築の互層が見える。盛土は南から北へ延びる。



1 中土橋通り枡形に面した切岸断面（北→） 切岸裾をSD404の地覆石が区画する。



2 中土橋通り枡形堆積土の断面（北→） 写真1の続き。



3 中土橋通り枡形堆積土の断面（北→） 写真2の続き



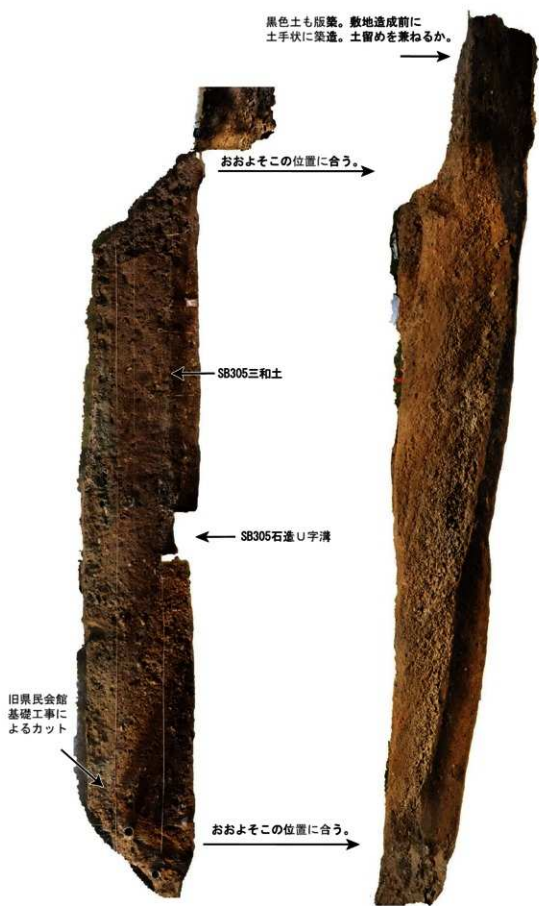
1 中土橋通り枡形堆積土の断面(北→) 図版244写真3の続き。写真中央にSD405木樁が埋まる。



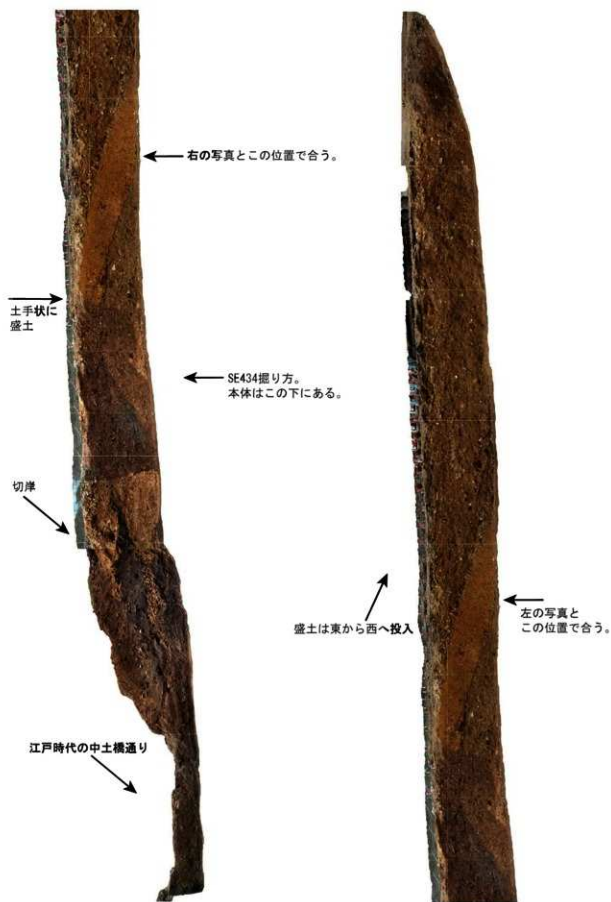
2 中土橋通り枡形に面した切岸断面(南→) 図版244写真1の対面にあたる。



3 敷地造成土の断面(南→) 写真2よりも5m程西側の断面。盛土は西から東へ向かう。



1 SB305と造成土の関係 (南→)



1 中土横通り枡形と造成土の関係 (北→)



SB03記念館馬車門レンガ造り礎石



旧陸軍小銃弾出土



SD29



1 SB03精査（南一） 記念館馬車門基礎検出。レンガ溜まりの下にSK111がある。



2 SB003精査（南一） SK111の上にレンガ溜まりがあるのは軟弱で凹みやすく、それを埋めるためと推定。



3 SB03断面（南一） 基礎は栗石とコンクリート。SK111の上に立てられた部分は基礎が深い。



1 SB03p1断面 (南東→) SK111の北西角を壊して作られる。



2 SD29完掘 (北東→) 記念館馬車門へのスロープと側溝検出。



3 SD29北側精査 (南東→)



4 SD29南側精査 (南東→)



5 小銃弾発見  
不発弾調査のためのレーダー探査で検出。先に800発見つかった残り。



# 報告書抄録

ふりがな	くぼたじょうあと							
書名	久保田城跡							
副書名	あきた芸術劇場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書（第3分冊 写真図版編）							
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第532集							
編者者名	磯村亨 村上義直 宇田川浩一 櫻庭悦央 武藤祐浩 山田祐子 山村剛							
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター			TEL (0187) 69-3331				
所在地	〒014-0802 秋田県大仙市弘田字牛嶋20番地							
発行機関	秋田県教育委員会			TEL (018) 860-5193				
所在地	〒010-8580 秋田県秋田市山王三丁目1番1号							
発行年月日	2024（令和6）年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 〃〃〃	東経 〃〃〃	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くぼたじょうあと 久保田城跡	あきたし 千秋明徳 町 2-52	050201		39° 43′ 00″	140° 7′ 30″	1次 20180618- 1214 2次 20190212- 0726 3次 20210216- 0331	12,310 ㎡	あきた芸術 劇場整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
くぼたじょうあと 久保田城跡	狩猟場	縄文	陥し穴 溝跡	10基 1条	縄文土器 石器		平安時代の特殊な掘立柱建物を2棟検出。榎竿支柱と思われる。江戸時代に家老職を歴任した浜江家の屋敷を全面調査。正門・脇門と久保田城創建期の中土橋門を検出した。正門は礎石建ちであり、石造じ字溝が設置されていた。中土橋通りを通る排水溝には内法幅60cmの木樋が30mにわたって敷設されていた。	
	散布地	弥生・縄文	なし		弥生中期土器 後北C2D式			
	集落 生産地	平安	掘立柱建物跡 竪穴建物跡 土師器焼成遺構 井戸跡 焼土遺構 畑跡	4棟 8軒 2基 2基 13基 1か所	灰陶輪器・土師器 須恵器			
	城館	江戸	土塼 礎石建物跡 掘立柱建物跡 竪穴状遺構 井戸跡 追跡跡 土坑 溝跡 焼土遺構 畑跡	3か所 1棟 30棟 7軒 14基 2か所 173基 64条 22基 2か所	国産陶磁器 (器種他九折・瀬戸瓦葺・関西系・信楽・越前・備前他) 中国陶磁器 (龍泉窯・景德鎮・漳州窯・交趾正) 土器 (かわらけ・惣務・貝塚等・土師・土師・土製品) 木製品 (木簡・漆器・指物他) 石製品 (硯・磁石・砥石他) 非鉄金属製品 (鐵貨・銅・キセル他) 鉄製品 (刀子・釘・鐵他)			
	公有地	近代	門跡	1か所	防衛武器・レンガ他			
要約	縄文時代の狩猟場に始まり、平安時代の集落・生産地を経て、江戸時代には久保田城三の丸南西隅に置かれた上級武士の邸宅遺跡。藩の家老職を歴任した浜江家の屋敷跡を全面調査した。浜江家は1604年頃から明治維新後、新政府に引き渡すまで260年以上に渡って本遺跡で生活した。調査地南東部に中土橋通りが併形を形成し、創建期の中土橋門を検出した。1682年に起きた火事痕跡と思しき焼土跡を遺跡東部に広く認め、屋敷正門・脇門とも焼土面の上下に検出された。1759年以後いつかの段階で正門が礎石建ちとなり、脇門の排水施設が石造化した。平安時代の榎竿支柱と思しき特殊な掘立柱建物跡を検出した。							

秋田県文化財調査報告書第532集

久保田城跡

—あきた芸術劇場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

印刷・発行	令和6(2024)年3月
編 集	秋田県埋蔵文化財センター 〒014-0802 大仙市弘田字牛嶋20番地 電話 (0187)69-3331 FAX (0187)69-3330
発 行	秋田県教育委員会 〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号 電話 (018)860-5193
印 刷	秋田中央印刷株式会社







